

補助事業者名	島根県自転車競技連盟	事業項目名	都道府県自転車競技連盟別選手権事業	委託の有無	無	委託比率 (50%以上)	無	補助金(千円)	補助対象経費総額(千円)	補助率
名称 変更		事業形態	( )	更新	1年目 / 5年計画			交付要望額	要望時	588
補助事業名	島根県自転車競技選手権大会	事業コード		各事業区分の予算額	・おっしゃっている	・おっしゃっていない項目がある		交付決定額(a)	交付決定時	588
				最終予算額	392	392		執行率 (b/a)	100%	2/3
				決算額 (b)	392	392				

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1 社会的課題 (補助事業を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください)

社会的課題 (最終目的) 現状 目指す姿

中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

2. 補助事業の設計・評価 (社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください)

(1) 補助事業で達成を目指す目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目	補助金 交付要望時	作成者 ( )	計画変更時(最終計画)	作成者 ( )
受益者	島根県に居住する自転車競技経験者	吉野朝雄		
具体的内容	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

事業内容	自己評価Ⅰ	自己評価Ⅱ
A 事業内容	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
B 事業内容	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等	中国地城選手権への派遣を目指すための「目的」達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

※社会的課題と補助事業の関係 (なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか?)

1. 補助事業は、様々な社会的課題を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指す。計画・設計し、実施するものです。
2. 社会的課題の把握 ⇒ 「改善・解決」のための手法決定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
3. 「社会的課題」の把握 ⇒ 「改善・解決」のための手法決定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
4. 「社会的課題」の把握 ⇒ 「改善・解決」のための手法決定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画

枠内は補助事業終了後に作成してください。 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

平成23年度 事前計画 / 自己評価書 (事業費)

□ 枠内は補助事業終了後に作成してください。 □ 枠内は平成25年2月未までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目	事前計画		自己評価 I		自己評価 II	
	計画変更時(最終計画)	作成者( )	計画変更時(最終計画)	作成者( )	計画変更時(最終計画)	作成者( )
C 広報	【上段】 事業終了時 平成25年 2月末時点	【(1)】配布する500枚の会報終年内チラシに、補助金による事業であることを紹介した。 【(2)】各大会会場内2ヶ所に、補助金による事業であることをロイヤリティを掲載する。 【(3)】各大会会場のチラシに掲載する。	【(1)】配布する500枚の会報終年内チラシに、補助金による事業であることを紹介した。 【(2)】各大会会場内2ヶ所に、補助金による事業であることをロイヤリティを掲載する。 【(3)】各大会会場のチラシに掲載する。	1	1	1
	【下段】 事業終了時 平成25年 2月末時点	【(1)】配布する500枚の会報終年内チラシに、補助金による事業であることを紹介した。 【(2)】各大会会場内2ヶ所に、補助金による事業であることをロイヤリティを掲載する。 【(3)】各大会会場のチラシに掲載する。	【(1)】配布する500枚の会報終年内チラシに、補助金による事業であることを紹介した。 【(2)】各大会会場内2ヶ所に、補助金による事業であることをロイヤリティを掲載する。 【(3)】各大会会場のチラシに掲載する。	4	4	4
D 自己評価 の体制	各大会終了後の1か月以内に助成員自動車競技連盟役員会にて事業評価会を開催予定である。 客観的な評価に努める。 詳細結果は団体のホームページより結果を公表する。	各大会終了後の1か月以内に助成員自動車競技連盟役員会にて事業評価会を開催予定である。 客観的な評価に努める。 詳細結果は団体のホームページより結果を公表する。	各大会終了後の1か月以内に助成員自動車競技連盟役員会にて事業評価会を開催し、事務局からの今後評価結果は団体のホームページより結果を公表した。	3	3	3

(4) 補助事業の総括 I (自己評価 I: 補助事業終了時) 作成者( ) (平成23年11月5日)  
補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

① 採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください) → 総合評価 3

② 総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目について記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 運営マニュアルの整備とスタッフ体制の確立及び経験ができた。 【理由】 トップ競技は例年どおりに開催できた。ロード競技については、特に新コースでの開催で運営マニュアル作成とスタッフ確保には苦労したが今後につながる。	今回の事業の課題・改善すべき点	【課題】 事業としてでは成果を得ることができてきたと考えている。一部の人が問題視しない募集チラシやホームページでの募集に限られたことも課題と考えている。ロード競技については、公道での交通通断により地元の方には、ご迷惑をおかけしたことが今後の課題である。 【改善策】 運営マニュアルの習熟と参加者数の増加策。予算も限られるが
事業全体の総合的感想	競技者登録数が少ないので、参加者数が伸びなかったことは残念な結果であるが、スポーツの中の自転車競技として関係団体を連携してPR活動や普及を検討していきたい。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アヒールしたい点等(あれば)	運営マニュアルの整備とスタッフ体制の確立及び経験ができた。

(5) 補助事業の総括 II (自己評価 II: 平成25年2月未までの状況) 作成者( ) (平成 年 月 日)  
平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。  
○ 事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須))	
----------------------------------	--